

矯正治療はどの程度天然歯のクオリティを

高めるのか？

加治 彰彦 半蔵門ファミリア矯正歯科医院
出身大学院：イエテボリ大学歯学部 歯科矯正学

講演抄録

現在では矯正治療がカジュアルになり、若年層のみならず、中高年層にまでも浸透してきた。歯科医院のホームページのほか宣伝媒体をみると、矯正治療のベネフィットが大きく謳われていることがあるが、なかには誇張されているものや誤解を生むのではないかと感じるコメントを目にすることもある。矯正治療は天然歯（列）のクオリティ向上に資することがあることは確かではあるが、必ずしもそうではないこともある。すなわち、歯科医側の誘導または患者自身の思い込みによって、場合によってはオーバートリートメントが行われている現実もありうる。我々歯科医は意味のある矯正治療が行われるように、科学的根拠に基づいて矯正治療介入の際のリスク／ベネフィットを検討し、患者との対話により判断を下すべきであろう。今回のセッションでは、矯正治療の天然歯（列）に対するクオリティ向上寄与度について検討してみたい。